

研究協力をお願い

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

化学療法を施行した大腸癌患者における活動度と筋体積に関する研究

1. 研究の対象

2014年3月24日～2017年2月28日までに、当院にて大腸癌に対する抗癌剤治療を行った30症例を対象とします。しかし、カルテ情報から運動器に障害のある整形外科疾患および、中枢神経障害である脳血管疾患や神経難病をお持ちの患者さんは除外します。

2. 研究目的・方法

がん治療の進歩は目覚ましく、場合によっては年単位で生存可能な患者さん（がんサバイバー）が増えています。しかしながら、がんサバイバーは、一時的もしくは永続的に各種の感覚障害、倦怠感、食欲不振、精神的なストレスなどによって活動性の低下を認め、筋力低下などの身体機能の低下をきたします。ひいては身体機能の低下は、日常生活動作能力低下（歩行困難など）をきたし、リハビリテーションの介入が必要な患者さんが一定数います。このような情勢の中で、2013年度診療報酬改定より、一定の条件を満たせば、がん患者リハビリテーション料を算定できるようになりました。しかしながら進行がん患者さんの化学療法施行期間中の活動性維持に関するエビデンスは乏しいのが現状です。そこで本研究は、化学療法施行中の大腸癌患者さんを対象にして、医師の診断した日常生活における活動制限度（Performance Status：以下PS）を元に診療の経過の中で撮影された時期ごとのCT画像から、3次元画像解析システムボリュームアナライザー-SYNAPSE VINCENTを用いて、体幹および下肢筋の3次元筋骨格モデルを作成します。活動制限の少ない時期（PS0～2）と活動制限の大きい時期（PS3～4）の体幹および下肢筋の体積を比較検討することを目的に研究を行います。

本研究では、対象症例のデータを取得します。症例データは、病院内の診療録管理室にて「3. 研究に用いる試料・情報の種類」に記載した情報を取得します。

研究期間

2017年3月9日から2022年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：患者背景（年齢、性別、身長、体重、既往歴、現病歴）および、採血データよりアルブミン値。対象症例のCT画像データより作成した3次元筋骨格モデル。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学江東豊洲病院リハビリテーション室 職名：理学療法士 氏名：井口 暁洋

住所：135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

電話番号：03-6204-6000（代表）

研究責任者：

所属：昭和大学江東豊洲病院リハビリテーション科 研究責任者：笠井 史人